

研究・調査報告書

報告書番号	担当
72	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
<p>Circulating levels of sex hormones and their relation to risk factors for breast cancer: a cross-sectional study in 1092 pre- and postmenopausal women(United Kingdom) 循環型性ホルモンレベルと乳癌危険因子の関連：英国 1092 人の閉経前後の女性の断面研究</p>	
執筆者	
Pia K. Verkasalo, Hollie V. Thomas, Paul N. Appleby et al.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer Causes and Control 2001;12:47-59	
キーワード	
エストロゲン、body mass index、身体活動、出産歴、性ホルモン結合グロブリン	
要 旨	
<p>(目的) 性ホルモン濃度と乳癌の危険因子について検討することを目的としている。</p> <p>(方法) 636 名の閉経前女性と 456 名の閉経後女性に関し、乳癌の危険因子およびエストラジオール、プロゲステロン、卵胞刺激ホルモン(FSH)、黄体ホルモン(LH)、性ホルモン結合グロブリン (SHBG) 濃度との関連を調査した。危険因子のデータは質問票と免疫アッセイ法によるホルモン濃度として得た。平均値は共分散分析を用いて比較した。</p> <p>(結果) 閉経前後共に、SHBG の減少と body mass index の増加、ウエスト/ヒップ比の増加が関与していた。閉経後女性だけにおいては、エストラジオールの増加に body mass index の増加が関与していた。閉経前の女性においては、エストラジオールの減少に身体活動量の増加が関連しており、エストラジオールは非喫煙者や禁煙者に比べ喫煙者で増加していた。また FSH の減少とアルコール摂取の増加に関連がみられた。閉経前後いずれでも、性ホルモンと月経開始年齢や出産回数、閉経年齢、過去の避妊薬使用との関連はみられなかった。</p> <p>(結論) 肥満、そしておそらくはウエストーヒップ比、身体活動量、飲酒量といった要因は血中性ホルモン濃度を変化させることにより乳癌の危険度を変化させるが、月経開始年齢や出産回数は関連がないと思われる。</p>	